



「麻布未来写真館」

ファインダーをとおして、未来に向けた新しい麻布を発信していきます。



麻布を語る会「麻布未来写真館」分科会
平成26年度活動報告
港区麻布地区総合支所

港区平和都市宣言

かけがえのない美しい地球を守り、世界の恒久平和を願う人びとの心は一つであり、いつまでも変わることはありません。

私たちも真の平和を望みながら、文化や伝統を守り、生きがいに満ちたまちづくりに努めています。

このふれあいのある郷土、美しい大地をこれから生まれ育つ子どもたちに伝えることは私たちの務めです。

私たちは、我が国が『非核三原則』を堅持することを求めるとともに、ここに広く核兵器の廃絶を訴え、心から平和の願いをこめて港区が平和都市であることを宣言します。

昭和60年8月15日

港 区

はじめに

本活動報告は、港区麻布地区総合支所の地域事業「麻布未来写真館」において、区民参画組織「麻布を語る会『麻布未来写真館』分科会」が、平成26年度に取り組んだ活動の記録です。

「ファインダーをとおして、未来に向けた新しい麻布を発信していきます。」

写真には写された記録だけではなく、多くの人々にとっての体験の「記憶」をも含められた、かけがえのない価値が備わっています。

本活動報告に掲載された写真は、新しいものも古いものも全て、ファインダーをとおして「麻布」をめぐる様々な人々の記憶を未来につなぐ貴重な記録です。

麻布の未来に向け、麻布地区総合支所は、多くの方々に記録と記憶の価値を伝え、区民の皆様への共感や愛着をより一層高めてもらえるよう取り組んでまいります。

活動を進めるにあたり、様々なかたちでご尽力をいただきました区民の皆さんや関係者の方々に、心から御礼を申し上げます。

平成27年3月 港区麻布地区総合支所協働推進課

《 目 次 》

はじめに	01
I. 分科会活動の概要	02
「麻布未来写真館」とは	02
パネル展の開催	03
II. 分科会メンバー作成パネルの紹介	05
パネルの作成	05
III. これまでの活動を振り返って	26
メンバーのことば	26
IV. 参考資料	31

区民参画組織「麻布を語る会」とは

港区麻布地区総合支所では、平成18年に新たな総合支所制度を導入して以来、地域に住み、働き、学び、活動する多くの人々が区政に参加し、地区の課題の解決策や将来について、ともに議論し、協働によって目標を達成していく「参画」と「協働」の取組に力を入れてきました。

「麻布を語る会」とは、区民の参画と協働により、麻布地区の将来像「生活者優先の、安全で安心して快適に住み続けられる国際・文化都市」の実現に向け、区民主体の検討や取組を進めるために設置された麻布地区の区民参画組織です。

メンバーは、麻布地区内に居住、勤務、在学し、または麻布地区のために活動したい公募区民等によって構成され、平成27年3月現在、「麻布未来写真館」・「麻布地区版基本計画策定」・「地域情報の発信」・「協働事業提案制度」の4つのテーマに分かれて分科会を設置し、それぞれ活発な取組を進めています。

I 分科会活動の概要

「麻布未来写真館」とは

「麻布未来写真館」事業実施の背景

麻布地区は、区内にある大使館の半数以上が集中し、外資系企業も多く立地するなど、国際的な「まち」です。また、外国人が多く利用する六本木の繁華街は、麻布の「まち」の国際的な魅力を高めることに貢献しています。麻布には由緒ある寺院や、毛利庭園のように大名屋敷の面影を今に残す庭園や、小説や落語に登場する坂や町名も多く残る歴史と文化の「まち」でもあります。

一方、アークヒルズ、泉ガーデンや六本木ヒルズ等に代表されるように、大規模なまちづくりによって「まち」が大きく変化しています。こうした大規模なまちづくりにより、貴重な歴史的資産や文化資産が喪失することがないようにするとともに、外国人を含む、麻布に暮らす多くの人々に麻布の歴史や文化をもっと知ってもらい、麻布の「まち」をより身近に感じ、愛着を感じてもらうための取組が重要です。

事業の趣旨

港区麻布地区総合支所では、平成 21 年度から区民や企業、大学等と協働し、麻布地区の昔の写真などを収集するとともに、定点写真を撮影し、麻布のまちの変化を保存する取組として「麻布未来写真館」事業を運営しています。

当事業は、麻布地区の資料収集・保存していくことを通じて、麻布地区に暮らす人々にとって身近な歴史・文化資源を保全・継承するとともに、より一層の活用を目的としています。

同時に、「まち」の歴史や文化をより多くの皆様に知っていただき、麻布地区への愛着を深めていただく一助となることを目指しています。

区民との協働事業

平成 26 年度は、広報紙等の募集を通じて集まった区民参画組織「麻布を語る会『麻布未来写真館』分科会」のメンバーとともに、地元企業等の協力を受けながら、撮影テーマ・箇所選定のためのワークショップ、まち歩き・撮影等を実施し、3 会期に分けてパネル展を開催しました。

麻布を語る会「麻布未来写真館」分科会メンバー（平成 27 年 3 月 1 日現在）

天羽 大器、荒澤 経子、入江 誠、岡崎 純子、小山 浩（副座長）、近藤 敏康（座長）、櫻井 綾、鈴木 順二、椿 由美子、増子 照孔、水野 禮子、横島 久子

パネル展等の開催

「麻布未来写真館」事業の一環として、これまでに引き続き開催した「パネル展」では、分科会活動の中で検討したテーマに基づき、メンバーが作成したパネルを展示しました。

事業開始から6か年目を迎え、分科会メンバーの尽力とともに、地域の様々な方々から、写真等のご提供、多大なご支援とご協力を賜り、質・内容とも従前にまさる展示内容とすることができました。今年度はパネル展を3期にわたり、延べ5会場で開催しました。

また、常設の展示として、有栖川宮記念公園管理事務所の掲示スペース及び港区麻布地区総合支所2階の区民協働スペース協の通路での展示を行いました。

パネル展スケジュール

◆第1期パネル展

会場：フジフィルム スクエア ミニギャラリー

平成27年2月6日（金）～2月19日（木）10:00～19:00

◆第2期パネル展

会場①：東洋英和女学院 本部・大学院棟 1階 史料展示コーナー

平成27年2月16日（月）～2月27日（金）9:00～17:00

会場②：港区麻布地区総合支所 1階 ロビー

平成27年2月16日（月）～2月27日（金）8:30～17:00

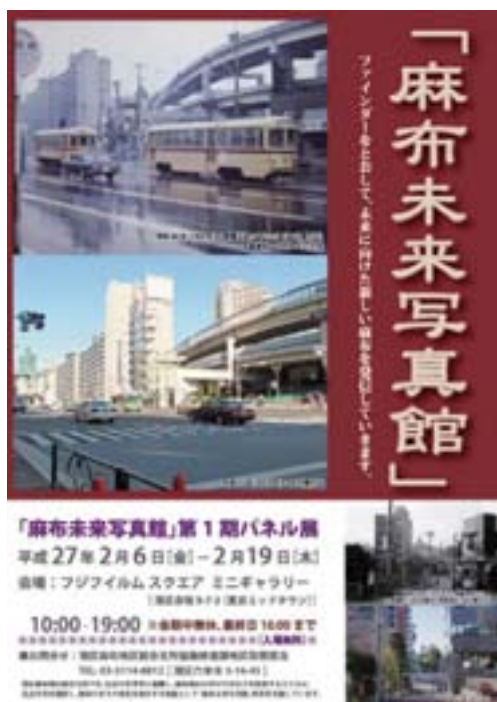
◆第3期パネル展

会場③：港区役所 1階 ロビー（庁舎玄関を右へ入って右手）

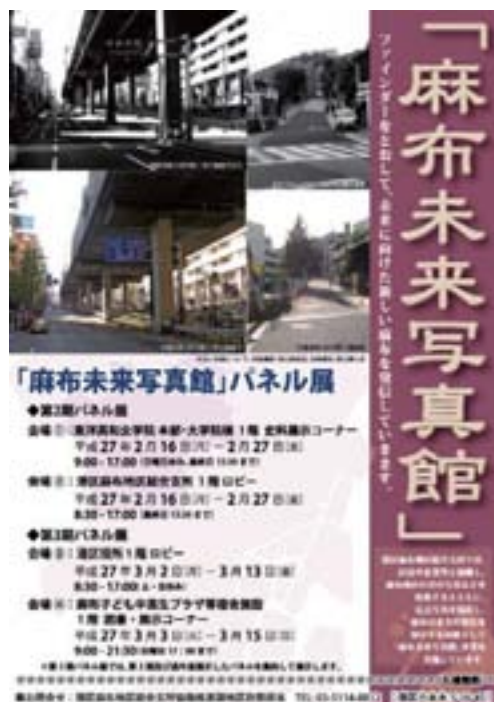
平成27年3月2日（月）～3月13日（金）8:30～17:00

会場④：麻布子ども中高生プラザ等複合施設 1階 図書・展示コーナー

平成27年3月3日（火）～3月15日（日）9:00～21:30



第1期パネル展ポスター



第2期・第3期パネル展ポスター

会場提供等、ご協力いただいた方々からのメッセージ

山本 佳之（フジフィルム スクエア 館長）

フジフィルムスクエアでの「麻布未来写真館」パネル展も定着し、地元から多くのお客様にご来館いただき楽しんでいただいております。展示された写真を見て「昔の私の家が写っている」とお喜びになったり、良き時代を懐かしんで語りあったりしているお客様の姿を見ると、街の歴史は人の歴史なのだと改めて思います。

今日もまた、あちらこちらでビルの新築工事などが進み、都会の真ん中で常に進化しつづけている麻布の街。そんな中でふと時代を振り返る、この企画は社会的・文化的に意義の高い事業であるとともに、人々の気持ちに寄り添った事業であると思います。

私どもも、素敵な「麻布未来写真館」に今後もご協力させていただきたいと存じます。

酒井 ふみよ（東洋英和女学院史料室）

本校史料展示コーナーで2月の恒例となった「麻布未来写真館」のパネル展示ですが、今年も、できるだけメンバーの方々の作成されたパネルに関係した写真を、史料室所蔵の写真データから探して展示しました。見学してくださる方々に楽しんでいただけていると思います。

テーマを持って古い写真を探するのは大変興味深く、毎回新しい発見や感動があります。現在の街並みも、住んでいる方々の息吹が伝わる写真があるとホッとします。

今後もこの地にある意義を活かしていけるように協力していきたいと思っています。



パネル展示にあたってのメッセージ

平成27年2月16日（月）からの第2期パネル展にあたり、会場提供等のご協力をいただいた東洋英和女学院様からも挨拶をいただきました。

「麻布未来写真館」パネル展の開催にあたって

港区麻布地区総合支所様より「麻布未来写真館」パネル展のお話をいただき、今年で5回目の参加となりました。長年にわたりこの地で女子教育に携わることができましたのも、ひとえに地域の皆様方の温かいご理解、ご支援によるものであり、心より感謝申し上げます。

東洋英和女学院は、カナダ人宣教師のミス・カートメルが麻布鳥居坂の地に、キリスト教の教えに基づいた教育をおこなうために1884（明治17）年に設立された学校です。今年で創立131周年を迎えています。

幸いなことに、学院は太平洋戦争の空襲時にも戦火を免れて、明治時代からの写真資料をはじめとする数多くの資料が学院史料室に保管されております。

このようなパネル展の機会を与えられ、かつての学院の近隣の様子を写真でご紹介することで、地域の皆様とこの地に対する思いを共有できますことを大変嬉しく思っております。

このパネル展が麻布地域の今後のさらなる発展のためにも意義深いものとなりますことをお祈りいたします。

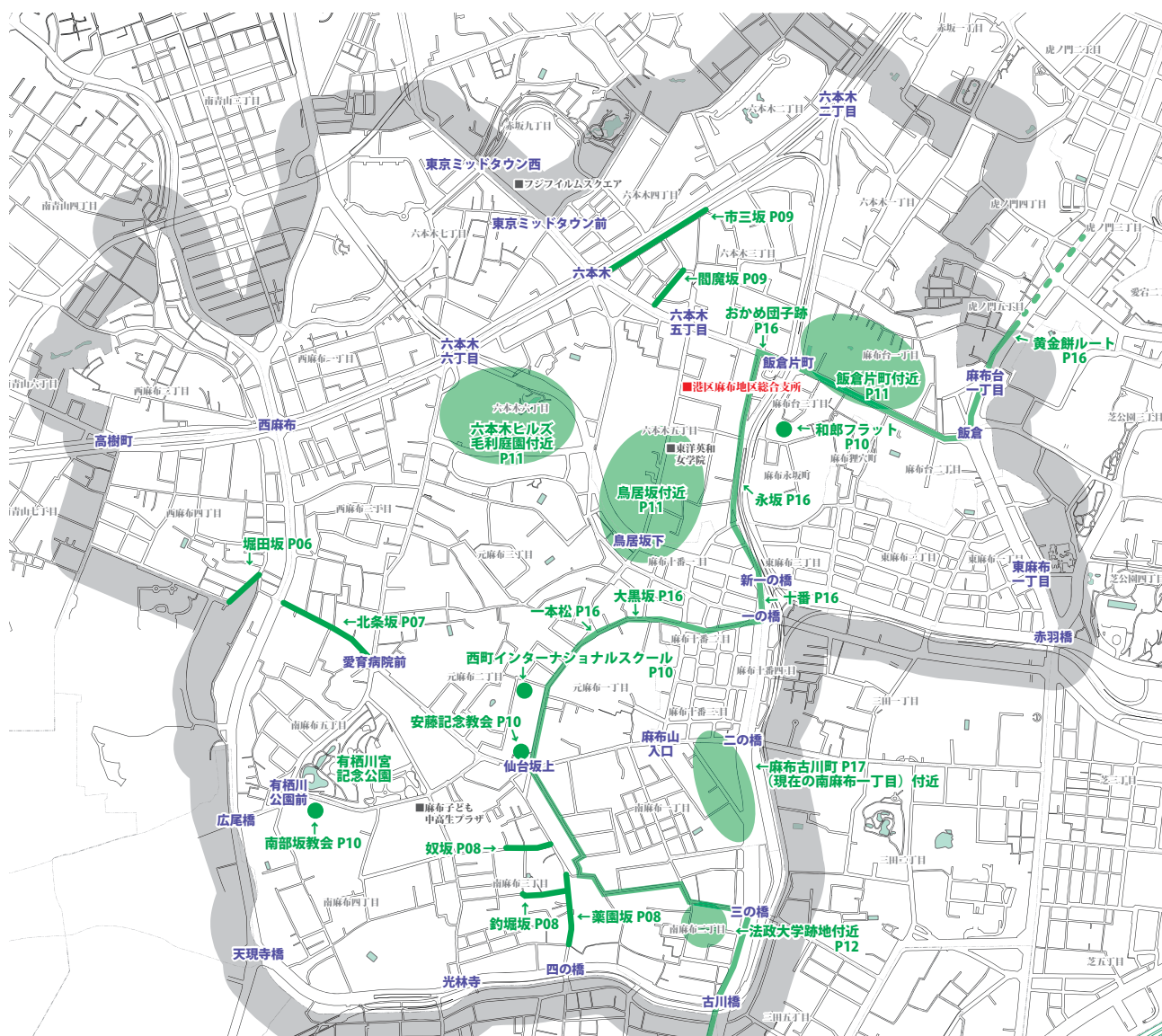
平成27年2月吉日
東洋英和女学院 理事長 水澤 郁夫
院長 深町 正信

Ⅱ 分科会メンバー作成パネルの紹介

パネルの作成

パネルの作成にあたっては、「麻布未来写真館」事業で麻布のまちの変化を保存する取組として行っている「まち歩き（撮影）」での写真やパネル作成のために個別撮影した写真、また区民等から提供していただいた写真や資料を活用しました。

なお、「Ⅱ. 分科会メンバー作成パネルの紹介」には、今年度の分科会活動で、関係機関などの協力のもと、写真・文献等の資料により、分科会メンバーが独自に調査し、作成したパネルの内容を掲載しています。



<写真について>

今年度作成した多くのパネルで新旧の比較を行っているが、必ずしも同一視点からの撮影にはなっていない。また、変化の様子をとらえるためにあえて周辺のまち並みも写してイメージの伝わる構図とした。

なお、写真に写っている個人や所有（車等）の特定を避けるため、さらに撮影条件、画像の経年劣化等を補うために軽微な画像加工を一部加えている。

西麻布の山坂（堀田坂）



昭和 49 年 (1974 年) : 堀田坂 坂上から



平成 26 年 (2014 年) : 堀田坂 坂上から



昭和 49 年 (1974 年) : 堀田坂 坂下から



昭和 59 年 (1984 年) : 堀田坂 坂下から



平成 26 年 (2014 年) : 堀田坂 坂下から



平成 26 年 (2014 年) : 堀田坂 標柱

堀田坂 (ほったざか)

江戸時代には、大名堀田家の下屋敷に向かって登る坂になっていた。

昔から、渋谷～日赤医療センター間を結ぶバスが通っていた。元麻布の麻布学園の生徒が渋谷方面に帰る時は、堀田坂を徒歩で登り、日赤医療センター前からこのバスを使う。

近くの東京女学館の生徒と乗り合わせることをほのかに期待しつつ、坂を登る。

西麻布・南麻布の山坂（北条坂）



昭和 59 年 (1984 年) : 北条坂 坂上から



平成 26 年 (2014 年) : 北条坂 坂上から



昭和 50 年 (1975 年) : 北条坂 坂下から



平成26年(2014年):北条坂 坂下から



平成26年(2014年):北条坂より鉄砲坂を望む



平成 26 年 (2014 年) : 北条坂 標柱

北条坂 (ほうじょうざか)

坂下近く南側に大名北条家の下屋敷があったためにこの名がついた。

三田方面から二之橋、仙台坂を登り、この北条坂を降りるのが青山方面へ行く近道であり、通行量が多い道。

坂の下の部分を鉄砲坂とも言う。

南麻布の山坂（奴坂・薬園坂・釣堀坂）



昭和50年(1975年):薬園坂 坂上から



昭和50年(1975年):
釣堀坂西から東を望む



昭和50年(1975年):薬園坂から下る



昭和50年(1975年):奴坂 坂下から

薬園坂(やくえんざか)

麻布の台地から南東に下り、古川の四之橋に達する坂。江戸時代前期にこの辺りに幕府の御薬園があったためこうよばれた。薬園は徳川綱吉の頃、白金御殿の拡張のため廃止され、小石川御薬園に移されたという。この付近は東から南に面しているのので日当たりがよく、薬草にも適していたのだろう。麻布台地の最南端が薬園坂上と言えよう。一帯は今も静かでのんびりした感じであり、鳥の声が大きい。

釣堀坂(つりぼりざか)

薬園坂を下り始めてほどなく右に小路がある。最初の道は行き止まり、二つ目が釣り堀坂だ。坂は向き合いで上りになり、本村小学校へと繋がっていく。付近に釣り堀が二つあったらしいが、今は1つしかない。私の記憶では昭和39年頃は坂下の横に小さな四角い池があり、春にはオタマジャクシが大量に泳いでいた。何匹かいただいて家に持ち帰った思い出がある。当時は、薬園坂から入って左側が石垣だったので、坂を登り下りせず、この上をつたって学校に行こうとしたが、かえって時間がかかってしまった。

六本木周辺の山坂と窪地



昭和50年(1975年):市三坂 坂下から



平成25年(2013年):市三坂 坂下から



昭和50年(1975年):市三坂 坂上から



平成26年(2014年):市三坂 坂上から (六本木交差点付近)



昭和50年(1975年):閻魔坂 坂下から



平成26年(2014年):閻魔坂 坂下から

大正から昭和まで 今も残る古い建物



昭和 57 年 (1975 年) 頃：
西町インターナショナルスクール



昭和 52 年 (1982 年)：松方ハウス



昭和 57 年 (1982 年)：安藤記念教会



平成 23 年 (2011 年)：
西町インターナショナルスクール



平成 23 年 (2011 年)：松方ハウス



平成 23 年 (2011 年)：安藤記念教会

西町インターナショナルスクール

西町インターナショナルスクールの中心、松方ハウス（写真中）はアメリカ人建築家ウィリアム・メレル・ヴォーリズの設計により大正 10 年 (1921 年) に松方正熊と妻美代子の私邸として建てられ、ここでこのスクールの創立者・松方種子や、駐日アメリカ大使ライシャワー夫人となる春子が育つ。その後、各国の公使館、大使館として使用された。昭和 40 年 (1965 年) からはスクールの教室および教職員室として活用された。東京都選定歴史的建築物であり、改修工事は行われたが、建物は昔のままである。

安藤記念教会

安藤太郎が駐ハワイ総領事時代に文子夫人とともにクリスチャンとなり帰国後、大正 6 年 (1917 年)、自宅をふくめた全てを教会として献げた。後ろの青い三角屋根のところが大正 12 年 (1923 年) に開設された付属幼稚園。建物は今でも当時の姿をとどめている。昭和 57 年 (1982 年) には日本建築学会より大正・昭和戦前に建てられた貴重な二千棟のひとつに選ばれた。



平成 26 年 (2014 年)：南部坂教会

南部坂教会

有栖川宮記念公園の向かい側、南部坂に面して建つプロテスタント教会。大正 7 年 (1918 年) 竣工の木造建物。改修工事が行われ現在も現役で使用されている。窓や入り口の形にも特徴がある。



平成 26 年 (2014 年)：和朗フラット

和朗フラット

麻布台裏路地の一角に、和朗フラット一号館・二号館・四号館が戦災を免れ、今も残る。古くからこの一角はスペイン村とも言われ、一帯はモダンな雰囲気醸し出している。和朗とは「ここに縁ある人が和やかに朗らかに」過ごせるようにとの願いを込めてつけられたとの事。

竣工：昭和 11 年 (1936 年) 頃 設計：上田文三郎 木造アパート



平成 26 年 (2014 年) : 毛利庭園



平成 27 年 (2015 年) : 鳥居坂上



平成 27 年 (2015 年) : 麻布郵便局



平成 7 年 (1995 年) : ニッカ池



平成 27 年 (2015 年) : 鳥居坂下



平成 27 年 (2015 年) : 麻布小学校

六本木ヒルズ・毛利庭園付近

この地には長門府中藩*毛利家の上屋敷が置かれた。明治 20 年 (1887 年)、増島六一郎 (中央大学初代校長) の邸宅となる。昭和 27 年 (1952 年) にニッカウキスキー東京工場、昭和 52 年 (1977 年) にはテレビ朝日の敷地となった。平成 15 年 (2003 年) に六本木ヒルズがオープン、現在の毛利庭園が誕生した。(*現在の山口県下関市一帯)

鳥居坂付近

六本木 5-11, 5-12 の間に位置する鳥居坂の付近は江戸時代、大名や武家屋敷が並ぶ一方、坂下には町人の町が並ぶような地形的配置となっていた。

かつて大名屋敷であった広大な土地が、明治維新後、財閥等に払い下げとなり、三井、三菱、住友の三財閥の関係者、三條邸をはじめとする公家や、李王家、久邇宮家などの宮家、といった華族邸が並んでいた。慶長の初期に鳥居彦右衛門元忠が坂下から見て東側に屋敷を拝領していた。また一説では氷川神社の二の鳥居あるいは三の鳥居があったとも言われる。

飯倉片町付近

港区麻布台一丁目、飯倉片町交差点付近には、江戸時代、米沢藩上杉家の中屋敷があった。明治時代より現在の日本郵政グループ飯倉ビル、外務省飯倉公館・外交資料館、麻布小学校の一角には、紀州徳川家の邸宅があった。邸内に「南葵文庫」「南葵楽堂」が開設され一般にも公開されていた。ここに設置されていたパイプオルガンは関東大震災後、旧東京音楽学校 (現在の東京芸術大学) に寄贈され、今も同大学、奏楽堂に設置されている。

麻布にあった大学（法政大学）



昭和 55 年（1980 年）：麻布校舎玄関



昭和 27 ～ 40 年（1952 ～ 65 年）：麻布校舎



昭和 28 年（1953 年）：麻布校舎



平成 26 年（2014 年）：法政大学跡地付近



平成 26 年（2014 年）：法政大学跡地付近

中央労働学園大学→法政大学社会学部・法政大学工学部 麻布新堀町（現在の港区南麻布二丁目）

法政大学社会学部は昭和 26 年（1951 年）に中央労働学園大学と合併し、昭和 27 年（1952 年）、法政大学社会学部になった。法政大学工学部は法政大学航空工業専門学校（昭和 20 年（1945 年））が前身で、法政大学工業専門学校を経て昭和 25 年（1950 年）に法政大学工学部が設置され、後に当地に移転、昭和 39 年（1964 年）頃までであった。その後小金井市梶野町に移転し、現在に至る。

麻布にあった大学（駒澤大学・電気通信大学）



明治～大正時代：
曹洞宗大學林専門学校（曹洞宗大学）



平成 26 年（2014 年）：毛利庭園



昭和 30 ～ 40 年代（1955 ～ 1965 年）頃：南麻布 4 丁目（都営住宅をはさみ安立電気本社を望む）



昭和 43 年（1968 年）頃：広尾病院から南麻布 4 丁目（天現寺橋交差点）を望む

このページに掲載されている古い写真について／（写真上）写真提供：駒澤大学禅文化歴史博物館、（写真中・下）写真提供：豊田幸雄氏

曹洞宗大學林専門学校 →駒澤大学（現在）

明治 15 年（1882 年）、麻布北日ヶ窪に開校し、明治 38 年（1905 年）、曹洞宗大学に改称。駒沢に移転する大正 2 年（1913 年）までの約 30 年間は港区六本木にあった。



平成 26 年（2014 年）：東京タワー西側の脚付近



平成 26 年（2014 年）：ニュー山王ホテル付近

国立電気通信大学

大正 7 年（1918 年）、国立電気通信大学、（通称：電通大）のルーツとなる電信協会管理無線電信講習所が麻布区飯倉町 4 丁目 4 番地（東京タワーの西側の脚付近）にあった小暮幼稚園の 2 階に創設された。当時、無線通信士の育成をめざしたその場所が、いま首都圏の電波を預かる要所になっている偶然是面白い。

電信協会管理無線電信講習所の前身「帝国無線電信講習会」は、安中電機製作所（現アンリツ（株））が大正 5 年（1916 年）、港区の自社工場内に開設した。安中電機製作所は天現寺橋交差点そば、現在のニュー山王ホテル付近にあった。

懐かしい写真 (区立小学校)



明治 36 年 (1903 年) :
麻布小学校 (尋常高等小学校時代)



筭小学校
「筭小学校五十年史」(昭和 34 年刊) より



明治 9 年頃 (1876 年頃) : 南山学校



明治 36 年 (1903 年) :
麻布小学校 (尋常高等小学校時代)



筭小学校旧校舎入り口
(昭和 30 年代の卒業アルバムより)



明治 28 年頃 (1895 年頃) : 南山尋常高等学校



昭和 4 年 (1929 年) :
麻布小学校 (昭和 4 年度運動会)



昭和初期 : 南山尋常小学校



昭和 50 年代 (1975 ~ 1984) :
麻布小学校旧校舎



筭小学校旧校舎 [大正 14 年 (1925 年) 建設]



昭和初期 : 当時の運動会



昭和 60 年 (1985 年) :
麻布小学校現校舎完成



「筭小学校五十年史」(昭和 34 年刊) より



平成 8 年 (1996 年) : 南山小学校 120 周年

このページに掲載されている古い写真について / 写真提供 : 港区立麻布小学校、港区立筭小学校「筭小学校五十年史」等、港区立南山小学校「南山小学校開校 120 周年記念」

懐かしい写真（東洋英和女学院）



明治18年（1885年）：
鳥居坂下のまち並みと丘の上の東洋英和学校



大正3年（1914年）：開園時の園舎



昭和39年（1964年）：六本木5丁目付近



明治から大正時代：
麻布教会（鳥居坂教会の前身）



昭和30年代頃：東洋英和女学院付近の空撮



明治時代から昭和初期：
外国人教師住宅と幼稚園



昭和39年（1964年）：六本木五丁目付近



明治33年（1900年）：
東鳥居坂8番地（現在地）に完成した校舎



昭和11年（1936年）：雪の降る道

このページに掲載されている古い写真について／写真提供：東洋英和女学院



昭和 50 年 (1975 年) :
絶江坂 坂下から坂上を望む



平成 26 年 (2014 年) :
絶江坂 坂下から坂上を望む

承応 2 年 (1654 年)、坂の東側に曹溪寺(そうけいじ)が赤坂から移転。初代和尚・絶江が名僧で付近の地名となり、坂名に変わった。



平成 27 年 (2015 年) :
「おかめ団子」跡
白いビルの脇の道 (写真右端) が永坂に通じている。



平成 27 年 (2015 年) : 永坂
長くなだらかな坂を下って
いくと十番に出る。



平成 27 年 (2015 年) :
大黒坂
坂の中腹北側に大黒天をまつる大法寺があったためにこう呼ばれた。大法寺の開山は慶長 2 年 (1597 年)。今も一本松の「大黒さま」として親しまれている。



平成 27 年 (2015 年) :
一本松
大黒坂を上っていくと姿を現す。平安時代中期の武将・源経基(みなもとのつねもと)などの伝説を持ち、古来、植えつけられてきた。

「黄金餅 (こがねもち)」 あらすじ

下谷の山崎町^{*1}に西念という坊さんがいた。貧乏長屋に住み、一所懸命お金をためていたが、風邪がもとで悪い寝ついてしまう。そこへ隣に住んでいた金山寺屋^{*2}の金兵衛が心配して見舞いにやってくる。

何か食べたいものはないかとたずねる金兵衛に、あんころ餅を山ほど買ってもらった西念。「他人が見ていると食べられないたち」だといって金兵衛を家に帰す。気になるので、金兵衛が壁の穴から隣を覗いてみると、西念はなにやら考え込んだ様子。じきに懐から汚い胴巻きを出し、一分銀と二分金を山のように取り出すと、餅の中に詰め込み、次から次へと呑み込んでしまった。と、餅をのどに詰まらせて苦しそうにしはじめたので、飛んで行って背中を叩いたりして介抱するが、西念はあっけなく死んでしまう。

腹の中の金を一人占めにしようとする金兵衛。亡骸を菜漬用の樽に納め、大家に事の顛末を話すと、息のあるうちに「死んでも行き所がないから、金兵衛さんの寺に葬ってくれ」と頼まれたと付け加える。こうして長屋仲間と葬列を組み、金兵衛の寺・麻布絶江釜無村の木蓮寺(架空)まで向かうことになった。

一行は山崎町から上野の山下を経て上野広小路に出ると、御成街道を進み、神田川にかかる筋違御門を通過して神田から日本橋に向かい、さらに京橋をまっすぐ進み、新橋の手前で右に折れ、新し橋(あたらしばし)のところで左に曲がって愛宕下に出て、神谷町を通過して飯倉で坂を上がり、飯倉片町の「おかめ団子」^{*3}の前を通過して永坂を下り、十番へ出て大黒坂を上がり、一本松を経て麻布絶江釜無村の木蓮寺に到着。

木蓮寺で読経が終り、焼き場の切手(火葬願いの書類)を受け取ると、ここから先は金兵衛一人、亡骸の入った樽を背負い、夜道を焼き場のある桐ヶ谷^{*4}へと向かう。

焼き場の男に、「腹のあたりは生焼けにしといてくれ」と妙な注文をつけるが、そうはゆかず。手伝いを申し出た男を追い払うと、「カリカリに焼いちまいやがって」などとぶつぶつ言いながら、隠し持っていた錆びた鯔切り包丁を取り出し、亡骸を調べはじめる。ようやくキラッと光るものを探し出した金兵衛。無我夢中でそれらをかき集め、急いで袂に入れて立ち去ろうとする。

男に焼き賃を置いていくように催促されると、「やなこった、泥棒!」、骨はどうするんだと問われると、「犬にでもやっちゃえ」と乱暴な答え。

ともかく目的を果たした金兵衛。目黒に餅屋を出して、たいそう繁昌したという。江戸の名物、黄金餅の由来の一席。

*1 山崎町：東京都台東区東上野と北上野

*2 金山寺屋：味噌売り

*3 おかめ団子：江戸時代から明治時代まで飯倉片町に実在した団子屋。

*4 桐ヶ谷：品川区西五反田(今も斎場がある)。

麻布と落語（小言幸兵衛）



平成 27 年（2015 年）：桜田通りの歩道橋より。麻布古川町へと入る斜めの小道を望む。奥には六本木ヒルズ。



平成 27 年（2015 年）：小道近景。手前の三角地帯には象印マホービン東京ビル、その辺りが麻布古川町。左手には港区立東町小学校がある。



平成 27 年（2015 年）：道路右側手前が麻布古川町と考えられるエリア。

「小言幸兵衛」の舞台となった麻布古川町は、現在の南麻布一丁目のごく小さな地帯、現在の象印マホービン東京ビルのある裏通り側の一角である。表通りの交通量は多いが、一旦小道に入れば静かな町並みである。



平成 27 年（2015 年）：麻布古川町沿いの道路反対側、山内遠江守屋敷跡。現在は港区立東町小学校となっている。



平成 27 年（2015 年）：ゆうあい南麻布（平成 27 年 3 月末まで改修中）



平成 27 年（2015 年）：現在南麻布一丁目にて営業している温泉銭湯「竹の湯」。幸兵衛さんの時代には、武士の小さな家々が建っていた一角であったと考えられる。

「小言幸兵衛（こごとやこうべえ）」 あらすじ

人間、癖の無い者はおらず、なくて七癖、あって四十八癖と言います。

麻布の古川に家主をしている幸兵衛さんという方がいましたが、この人は朝起きてから長屋を一回りして小言を言わないと飯がまずいという程小言を言うのが癖なので、小言幸兵衛と呼ばれるくらい。

ある日、家を借りたいと店賃を聞く人が幸兵衛さんの家にやってきた。幸兵衛さんに店賃を聞くも、口の利き方を知らないと逆に小言を言われる。幸兵衛さんは次いで商売を聞くと、豆腐屋。近所に豆腐屋が無いので一旦気乗りするものの、家族構成を聞いて豆腐屋が「かかあがひとり」と言えば、「これまでに三人も四人もいるのか。でなければ、ことさらひとりこととわる必要は無い。無駄口をきくやつに利口なやつはいない。」とまた小言。さらに一緒になって 8 年になって子供が居ないとすると、「離縁して独り身で来い。子のできるかみさんを世話するから。」と幸兵衛さん。これには、豆腐屋はいかにかみさんと「好いて好かれて、好かれて好いて」の仲かを力説して出て行ってしまふ。

次いで現れた客人。豆腐屋と打って変わって丁寧な口の利き方で、家を借りられるかどうか幸兵衛さんに尋ねる。

幸兵衛さんは客人の物の問い方や返事の仕方の無駄の無さから、学のありそうな様子に感心し、座布団やお茶、羊羹などを出すように婆さまに言う。幸兵衛さんは再び訪問者に商売を尋ねると「仕立て職を営んでおります。」との返答。「仕立屋さんだからいとなむ、ときたな」と、シャレを効かせてうまいと絶賛する幸兵衛さん。

次いで、徐々に家族構成など尋ねる幸兵衛さんだが、仕立屋に 20 歳の跡継ぎ息子が独り身で居るとわかると「この長屋に心中が起るから貸すわけにはいかない。どんな遺恨があって、この長屋へこんな騒動を持ち込むのか。」と言い始める。

理由のわからない仕立屋に幸兵衛さんは続ける。「このすじむかに古着屋のお花という 19 の娘がいる。始めのうちは遠慮があるが、毎日顔を合わせている間に心の中で思い思われる仲になってくるだろう。そのうちにお花のお腹がポンポコランとせり出してくる。おまえさんの倅の胤を宿したんだ。そして、とうとう両親に知れてしまう。ところが、両親は怒らない。『仕立屋の息子なら申し分無い』ということだ。お前さんも思い切って倅をやるんだな。」「いえ、まだ引越しておりませんので。」「人の娘をきずものにしてどうするんだい？婿にやれ、すぐに。」「それは困ります。一人息子でございますから。」「向こうだって一人娘だよ。ああ、双方の親が強情を張ってたんじゃ、この世じゃ添えないから、ここで心中にならあ。心中となれば、幕が開く。」

と、幸兵衛さんの話の中では、幕が開き、芝居が始まる。そこで、仕立屋の倅の名を尋ねるが名前が聞けだと言い、宗旨が法華とわかれば心中するには陽気だと小言を言い、お花の家の宗旨が真言だとわかれば心中の雰囲気をごち壊しだと小言を言い、最後には「貸すわけにはいかねえから帰ってくれ！」と幸兵衛さん。仕立屋は驚いて出て行ってしまった。

麻布で見られた皆既月食



麻布郵便局付近からは東京タワー上空に皆既月食が見えた。



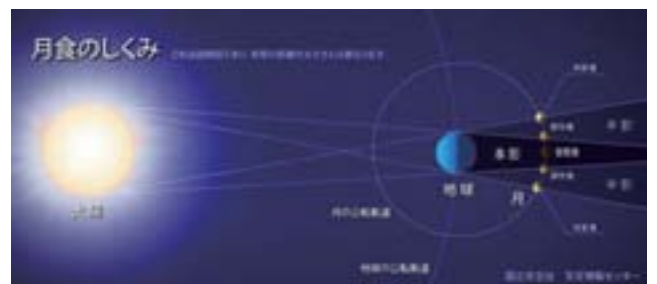
皆既後に現れた月



六本木ヒルズで撮影する人々



麻布地区総合支所3階より 左から [18:19頃]⇒[18:31頃]⇒[18:55頃]



平成26年(2014年)10月8日、曇っていなければ、日本全国で皆既月食が見えた。麻布では、皆既月食直前に曇り、皆既月食終了直後に晴れ間が出て撮影ができた。皆さんご存知の通り、月食は太陽と地球と月が一直線上に並んだ日、ちょうど満月の時に起こる。太陽の光を地球が受けると、その反対側に地球の大きな影ができ、その影の中を月が通り抜ける時に見られるのが月食。影の中心付近を通り過ぎると皆既月食、中心から離れた影の縁付近を通り過ぎると部分月食として見られる。満月から次の満月まで約29.5日、ほぼ毎月起こるはずだが、太陽の通り道(黄道)と月の通り道(白道)とは約5度傾いているため、毎月起こる事はない。



六本木ヒルズより [18:55頃]

飯倉片町付近から見物する人々

このページに掲載されている写真について／撮影：平成26年(2014年)10月8日

古い麻布



昭和40年頃（1965年頃）：飯倉片町付近



昭和40年頃（1965年頃）：飯倉片町付近



昭和40年頃（1965年頃）：飯倉片町付近



昭和40年頃（1965年頃）：飯倉片町付近



昭和40年頃（1965年頃）：飯倉片町付近



昭和40年頃（1965年頃）：飯倉片町付近



昭和32年頃（1957年頃）：
ツインーの橋 建築前航空写真



昭和32年頃（1957年頃）：
ツインーの橋 建築前航空写真



昭和39年（1964年）：港区役所麻布支所にて



昭和42年（1967年）：飯倉交差点付近



昭和42年（1967年）：飯倉交差点付近



昭和42年（1967年）：飯倉交差点付近



麻布西野園（東麻布商店街）



東麻布商店街

このページに掲載されている写真について／（飯倉片町付近）写真提供：渡邊 稔子氏、（ツインーの橋航空写真）写真提供：早川一夫氏、写真撮影：佐藤 翠陽氏、（麻布支所前集合写真）写真提供：齋藤 富士郎氏、（飯倉交差点付近）写真提供：河村 かずふさ氏、（東麻布商店街）写真提供：麻布西野園

六本木交差点

Ⅱ 分科会メンバーパネルの紹介



平成 26 年 (2014 年) 4 月



平成 26 年 (2014 年) 3 月



平成 26 年 (2014 年) 8 月



平成 26 年 (2014 年) 10 月



平成 26 年 (2014 年) 7 月：朝日神社



平成 26 年 (2014 年) 9 月



平成 26 年 (2014 年) 5 月



平成 26 年 (2014 年) 4 月



平成 26 年 (2014 年) 10 月



平成 26 年 (2014 年) 10 月



平成 26 年 (2014 年) 3 月 / 3 月



平成 26 年 (2014 年) 7 月：朝日神社



平成 26 年 (2014 年) 10 月 / 7 月



麻布十番付近



平成 26 年 (2014 年) 7 月：パティオ十番



平成 26 年 (2014 年) 2 月：麻布十番駅付近



平成 26 年 (2014 年) 2 月：パティオ十番



平成 26 年 (2014 年) 1 月：一の橋交差点



平成 26 年 (2014 年) 2 月：一の橋交差点



平成 26 年 (2014 年) 10 月：一の橋交差点



平成 26 年 (2014 年) 9 月：麻布十番の秋祭り



平成 26 年 (2014 年) 9 月：麻布十番の秋祭り



平成 26 年 (2014 年) 8 月：麻布十番納涼まつり (パティオ十番)

麻布・桜スポット（街角のさくら）



平成 26 年 (2014 年) : 六本木一丁目付近



平成 26 年 (2014 年) : 六本木七丁目付近



平成 26 年 (2014 年) : 西麻布三丁目付近



平成 26 年 (2014 年) : 東麻布三丁目付近



平成 25 年 (2013 年) : 東麻布三丁目付近



平成 26 年 (2014 年) : 西麻布四丁目付近



平成 25 年 (2013 年) : 六本木五丁目付近



平成 26 年 (2014 年) : 元麻布一丁目付近

麻布・紅葉スポット（有栖川の紅葉）



平成 26 年 (2014 年) : 有栖川宮記念公園



平成 26 年 (2014 年) : 都立中央図書館



平成 26 年 (2014 年) : 有栖川宮記念公園



平成 26 年 (2014 年) : 有栖川宮記念公園



平成 26 年 (2014 年) : 有栖川宮記念公園



平成 26 年 (2014 年) : 有栖川宮記念公園



平成 26 年 (2014 年) :
麻布子ども中高生プラザ等複合施設



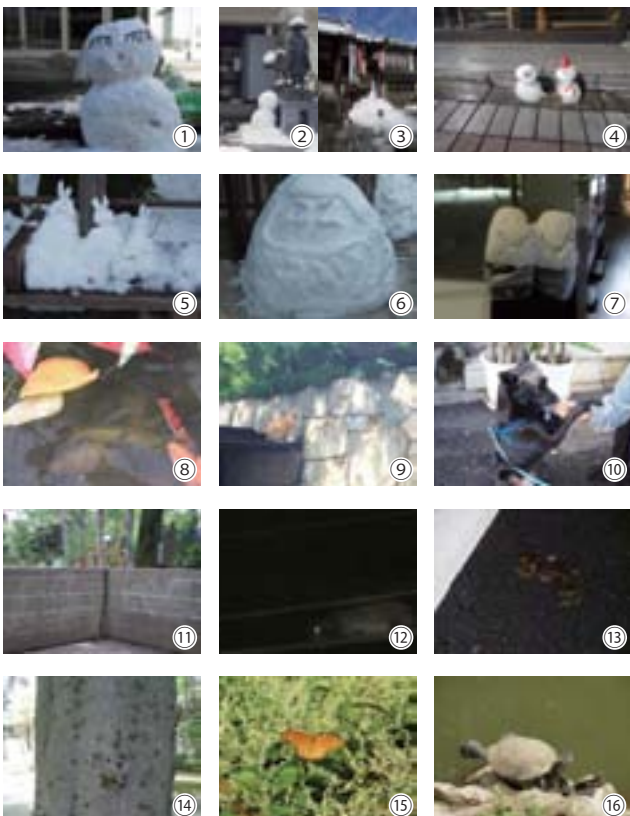
平成 26 年 (2014 年) : 有栖川宮記念公園

麻布の散歩道



- ①：平成 26 年（2014 年）六本木交差点付近
- ②：平成 26 年（2014 年）六本木交差点付近
- ③：平成 26 年（2014 年）六本木交差点付近
- ④：平成 26 年（2014 年）六本木一丁目付近
- ⑤：平成 26 年（2014 年）六本木交差点付近
- ⑥：平成 26 年（2014 年）市三坂（六本木三丁目）
- ⑦：平成 26 年（2014 年）六本木一丁目付近
- ⑧：平成 27 年（2015 年）櫻田神社（西麻布三丁目）
- ⑨：平成 27 年（2015 年）麻布地区総合支所前（六本木五丁目）
- ⑩：平成 26 年（2014 年）道源寺坂（六本木一丁目）
- ⑪：平成 26 年（2014 年）スペイン坂（六本木一丁目）
- ⑫：平成 26 年（2014 年）スペイン坂（六本木一丁目）
- ⑬：平成 26 年（2014 年）麻布台三丁目付近
- ⑭：平成 26 年（2014 年）麻布永坂町付近
- ⑮：平成 26 年（2014 年）落合坂（麻布台一丁目）

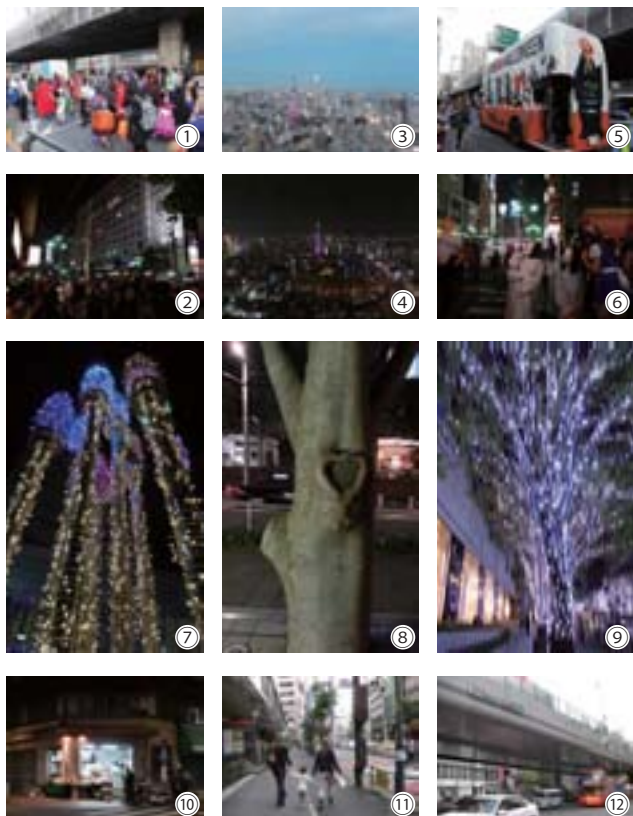
麻布で見つけた



- ①：まつげの雪だるま
- ②：お寺のかわいい雪だるま（徳正寺）
- ③：お寺のかわいい雪だるま（大法寺）
- ④：とんがり帽子の雪だるま
- ⑤：ウサギの雪だるま
- ⑥：達磨の雪だるま
- ⑦：空き缶入れの雪の顔
- ⑧：宮村池の黒メダカ
- ⑨：絶江坂横のけもの道
- ⑩：被災地から来て大切にされている犬
- ⑪：有栖川宮記念公園のアオダイショウ
- ⑫：麻布の電線にハクビシン
- ⑬：麻布のガマガエル
- ⑭：有栖川宮記念公園の甲虫がたかる木
- ⑮：麻布の蝶
- ⑯：外来種のカメがのんびり

撮影年：平成 23 年（2011 年）～平成 26 年（2014 年）

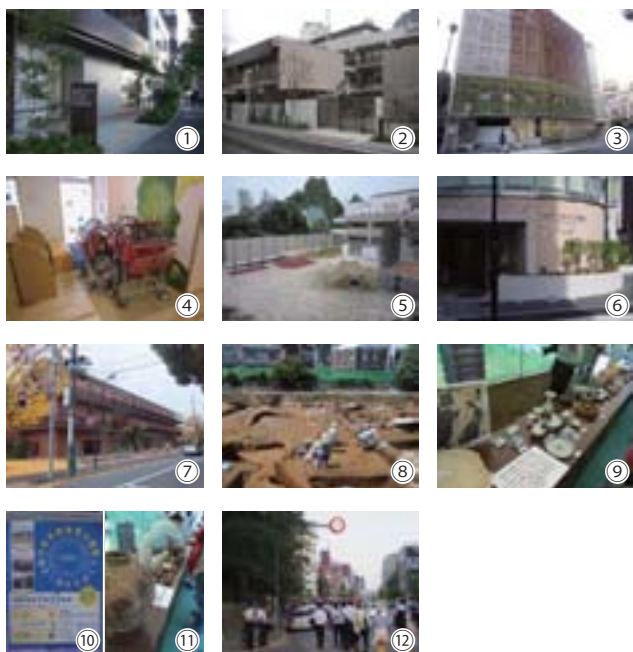
麻布 昼と夜



- ①：六本木七丁目付近 第1回六本木ハロウィンパレード
- ②：六本木五丁目付近 ハロウィンの夜
- ③：六本木ヒルズから東京タワーを望む
- ④：六本木ヒルズから東京タワーを望む
- ⑤：六本木七丁目付近 第1回六本木ハロウィンパレード
- ⑥：六本木五丁目付近 ハロウィンの夜
- ⑦：麻布十番駅付近
- ⑧：けやき坂
- ⑨：けやき坂
- ⑩：麻布十番商店街
- ⑪：六本木五丁目 ロアビル前
- ⑫：六本木交差点付近

撮影年：平成26年(2014年)

最近の麻布



- ①：西麻布いきいきプラザ等複合施設
- ②：麻布保育園
- ③：麻布図書館
- ④：麻布保育園
- ⑤：麻布保育園
- ⑥：麻布図書館
- ⑦：麻布子ども中高生プラザ等複合施設
- ⑧：旧三河台中学校発掘現場
- ⑨：旧三河台中学校発掘現場
- ⑩：六本木安全安心憲章
- ⑪：旧三河台中学校発掘現場
- ⑫：東京六大学野球優勝パレード(西麻布)

撮影年：平成26年(2014年)

Ⅲ これまでの活動を振り返って

副座長 小山 浩

6年目が終了しました。正直言いますと、3、4年目がなかなかアイデアや素材が少なくてパネル展がうまく出来るか不安でした。しかし続けて行くとパネル展の評判も良くなってきた模様だし、やはり継続は力なりという事でしょうか。私の行く美容院は西麻布にあるのですが「麻布未来写真館」の報告書を一冊置いています。周囲は割と新しい大きいマンションがあり、美容院に来られる方の中には地方から西麻布に来られる人もいるとのこと。故郷ではないのですがこれから暮らす西麻布という土地がどのような土地なのか詳しく知りたいとおっしゃっていたそうです。今の自分の家、土地の歴史を知りたいと言う方は麻布だけではなく増えているような気がします。来年からまた新しいシーズンとなりますのでメンバーの足を引っ張らないように頑張ります。



メンバー 天羽 大器



「麻布未来写真館」に参加して5年目になった。これまでは、「あざぶ達人倶楽部」ではできなかった「写真で見る麻布の地形」というテーマでパネルを作成してきた。ニッカ池、水脈、坂道、階段・抜け道の4パネルである。これについては最近、森ビルが港区の地形のジオラマを作成した。さすがという感じである。

今年は「あざぶ達人倶楽部」の時からあたためてきた「麻布と学校」というテーマでパネルを作成した。その結果、法政大学と駒澤大学から資料提供していただいた。これに電気通信大学を入れて2パネルを作成した。このパネル作成は来年度も続く。青山学院、麻布大学、都立光明特別支援学校、駒場高校、香蘭女学校、N T T東日本研修センター、自治大学校である。

まだまだ麻布には隠れた資料が眠っている。これからもこういった資料を掘り起こしてパネルについて発表したいと思っている。こういう事業に興味がある方は参加してほしい。メンバーが「大人の文化祭だね」という活動をしている。

写真提供：
法政大学史委員会

メンバー 荒澤 経子

「麻布未来写真館」に在籍して2年になりました。当初の1年は麻布の写真撮影に精一杯で余裕が全くありませんでしたが、次第に撮影後の写真整理やパネル展の大変さを知ることになりました。

過日、フジフィルムスクエアで土門拳の日本の著名人や庶民のポートレートを見て、昔の人の顔立ちの良さに驚きましたが、麻布の懐かしいおおらかな写真にほかほかと心あたたくもなりました。



メンバー 入江 誠



この一年も過去に撮影された写真をもとに現在と重ね合わせることに満足してきました。それも写真だけでなく、現在の地図と大正、明治、江戸と古地図を重ね合わせて、その移り変わりに興味を深めた。「麻布未来写真館」メンバーの良きエキスパートの助けもあり、その興味も深まった。麻布には幹が太くて背丈の高い樹木が意外と多いことに目を付けた。その昔、大名屋敷があった頃の樹木が現在も切られずに保存されている。この木を頼りに、現在の地図に古地図を重ね合わせ、少しずつ遡っていくのも歴史を辿る思いつきだと思う。今年は大木を求めて歩いてみます。

メンバー 櫻井 綾

今年度も子連れでの参加となりました。周囲の方々のご配慮、ご協力に感謝いたします。ありがとうございました。さて、今年度の「麻布未来写真館」でもまち歩き及び自主活動で、様々な場所に足を運び撮影をいたしました。漫然と眺めては何気ない景色も、昔の写真との比較や、今は無い昔の武家屋敷や長屋、学校などなど由来を知ってもう一度見返す楽しみを改めて確認いたしました。

思い返せばいくつも思い出がよみがえってきますが、何度となく足を運んだ六本木ヒルズの展望台も思い出が多く残りました。目的の撮影を終え、ぐるっと回って西側に足を運べば日が傾き始めた太陽と富士山を見晴らすカフェが目飛び込んできました。時間に追われる日常をふと忘れた瞬間でもあり、高層ビルなど無かった100年ほど前に思いをはせる時間でもありました。このような景色に昔を重ねる事が出来る貴重な機会と経験をいただき、感謝です。



メンバー 椿 由美子

「麻布未来写真館」の活動を通じて、四季折々のまちの表情をより豊かに感じることができた一年であったと、感謝しております。

春は桜。六本木5丁目界隈や毛利庭園などに足を向け、たなびくピンクの霞に、わくわくしながらレンズを向けたことを思い出します。夏のまち歩きでは、青々と茂った善福寺の逆さ銀杏の雄姿や、柳の井戸の涼やかな気配に、秋のまち歩きでは、静かな邸宅街や公園など、行く先々で朱や黄金色の衣をまとった木々の美しさに心癒されました。鳥居坂下付近の歩道に小さな黄色い実をつけた金柑の木を見つけ、こんなところに？とメンバーのみなさんとしぼし盛り上がったことも楽しい思い出です。

趣は異なりますが、ハロウィン・ナイトの六本木交差点界隈の賑わいも、強く印象に残っています。

奥が深く、底力のある麻布のまち。これからもさまざまな表情をとらえ、記録に残してゆきたいと思います。みなさま、一年間、ありがとうございました。



メンバー 岡崎 純子



年に数回、メンバーによる「まち歩き」を行っております。その際、長年お店を営んでいる方、お住まいの方にお会いすることがあります。皆様の麻布についての貴重なお話、楽しい思い出等を伺うことができ、撮影に大変参考になっております。沢山の皆様に愛されている麻布を記録、保存していく取り組みである「麻布未来写真館」に、微力ですが、お手伝いできることを嬉しく思います。

ご協力いただきました多方面の方々に、厚くお礼いたします。

メンバー 増子 照孔

もう6年もたつのかと思うと反省ばかりです。麻布の歴史や変遷を知り大変勉強させていただき有りがたく思っております。最初は業者さんも私達も一生懸命でしたが今はマンネリ化してあまり進歩がないように思います。長年住んでいる方の参加を希望します。6年前からどんどん変わっている麻布を未来に残す麻布住民のために御一緒出来たらうれしいです。是非新しいアイデアの提供を待っています。また過去の歴史も伝えてゆきたいと思います。

メンバー 鈴木 順二

「麻布未来写真館」の活動に参加させていただいてから、麻布の町を意識して見つめるようになりました。それまで、ただ通り過ぎるだけだった町の、移り変わりのはげしさを改めて認識しています。このあいだまで木造の家だったところに、いつの間にかマンションが建ち、そのマンションが年を経ずしてまた建て替えられる……。近年は、高齢者向けの施設も増えてきました。その一方で、周囲の変化にとり残されたように、古びてゆく家も見かけます。庭の樹木が生い茂り、あるいはツタがからみつки、無人のまま何年も放置されたままの家屋です。麻布の町の姿を通して、社会の様々な顔が見えてきます。



メンバー 水野 禮子



都心にあって

何と言っても東京タワーの夜景が好きです。何年も見て生活できることはうれしい。近年めまぐるしい高いマンションが立ち並びだんだん遠くの空が見えなくなり時代とはいえ大規模なまちづくりに変化してきました。

私たち麻布に暮らす人々が身近な歴史や文化を「麻布未来写真館」に収集・保存していくためにまち歩きで撮影し、パネル展を進めています。

メンバー 横島 久子

慣れない手にカメラを持ちこの「麻布未来写真館」に参加させて頂きました。古い写真を手がかりに麻布の街を、坂を、露地を歩き驚きや発見がありました。その中でも印象的だったのが、80年前の家並が、そのまま現在も静かに佇む風景がありました。それが麻布台三丁目のスペイン村でした。スペイン村と呼ばれる由来については勉強不足で定かではないのですが、1935年頃、アメリカ帰りの学者である上田文三郎氏が、アメリカ西海岸あたりの思い出の街並みを再現させたようですが、窓の形や、屋根の姿などが美しい、この家並が私は好きです。現在のこの風景が、家並が、このまま麻布の貴重な家並として未永く保存されますよう、願っております。



座長 近藤 敏康



おかげさまで「麻布未来写真館」事業も6年目を迎えることが出来ました。この事業を長年支えてくださった多くの関係者の方々をはじめ、貴重な古い写真をご提供くださった方々、パネル展においでくださった方々、インターネットで閲覧頂いた方々に改めて御礼申し上げます。今年度は、港区公式ホームページでの常設展示もスタート、麻布地区総合支所二階と、有栖川宮記念公園公園事務所の常設展示とともに、常時まとまった数のパネルを閲覧いただけるようになりました。

今後、直接ご意見をいただいたり、アンケートでご指摘いただいた点等、改善しつつ、メンバーの皆さんと楽しく麻布にまつわる写真や情報を追加

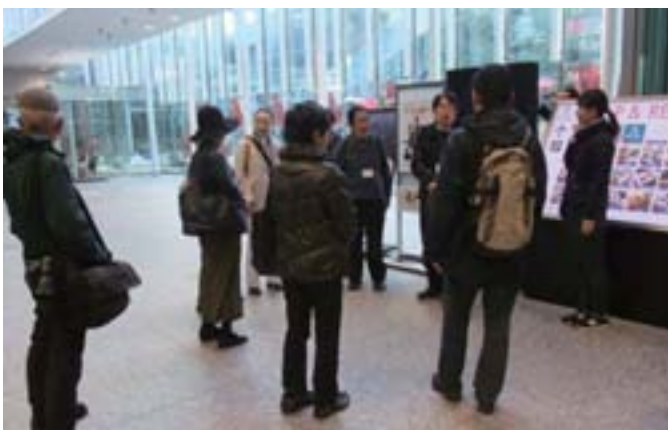


し、多くの方々に愛していただけるよう発展させるご協力ができるばと思っております。

今年は、日本全国で皆既月食が見られ、麻布でも多くの方々が皆既月食を見ようと、空を見上げる姿を見受けました。東京タワーの上に出現した皆既月食直後の赤い月。そんな赤い月の一部をご紹介します。

講師 達川 清

麻布十番、パティオ前に行くメンバーの姿が楽しい。まち歩きの撮影。もう十分に知り尽くしている路地裏や新しく変わってゆく地区を、過去・現在・未来と見据える視点が出来てきてうれしいですね。皆さんの麻布地区を愛している様が写真によく現れています。これからも楽しみにしています。



IV 参考資料

分科会活動記録（平成 26 年度）

- 平成 26 年 6 月 9 日 第 1 回分科会 (メンバー紹介、平成 26 年度の活動について)
- 6 月 30 日 第 2 回分科会 (平成 26 年度の活動について、まち歩き・撮影について)
- 7 月 5 日 第 3 回分科会 (まち歩き：第 1 回撮影)
- 7 月 6 日 第 3 回分科会 (まち歩き：第 1 回撮影)
- 7 月 22 日 第 4 回分科会 (撮影結果・今年度の活動について)
- 9 月 2 日 第 5 回分科会 (パネル作成について)
- 9 月 24 日 第 6 回分科会 (まち歩き・パネル作成について)
- 10 月 4 日 第 7 回分科会 (まち歩き：第 2 回撮影)
- 10 月 21 日 第 8 回分科会 (撮影結果・パネル作成について)
- 11 月 30 日 第 7 回分科会 (まち歩き：第 2 回撮影)
- 12 月 2 日 第 9 回分科会 (撮影結果・パネル作成について)
- 12 月 18 日 第 10 回分科会 (パネル作成・パネル展について)
- 平成 27 年 1 月 8 日 第 11 回分科会 (パネル作成・パネル展について)
- 1 月 30 日 第 12 回分科会 (パネル作成・パネル展について)
- 2 月 6 日 パネル展 フジフイルム スクエア ミニギャラリー (～ 2/19)
- 2 月 16 日 パネル展 東洋英和女学院 史料展示コーナー (～ 2/27)
- 2 月 16 日 パネル展 港区麻布地区総合支所 ロビー (～ 2/27)
- 2 月 24 日 第 13 回分科会 (パネル展について)
- 3 月 2 日 パネル展 港区役所 ロビー (～ 3/13)
- 3 月 3 日 パネル展 麻布子ども中高生プラザ等複合施設 図書・展示コーナー (～ 3/15)
- 3 月 24 日 第 14 回分科会 (活動を振り返って)



パネル展等の様子



フジフィルム スクエア ミニギャラリー



フジフィルム スクエア ミニギャラリー



東洋英和女学院 史料展示コーナー



東洋英和女学院 史料展示コーナー



港区役所 ロビー



港区麻布地区総合支所 ロビー



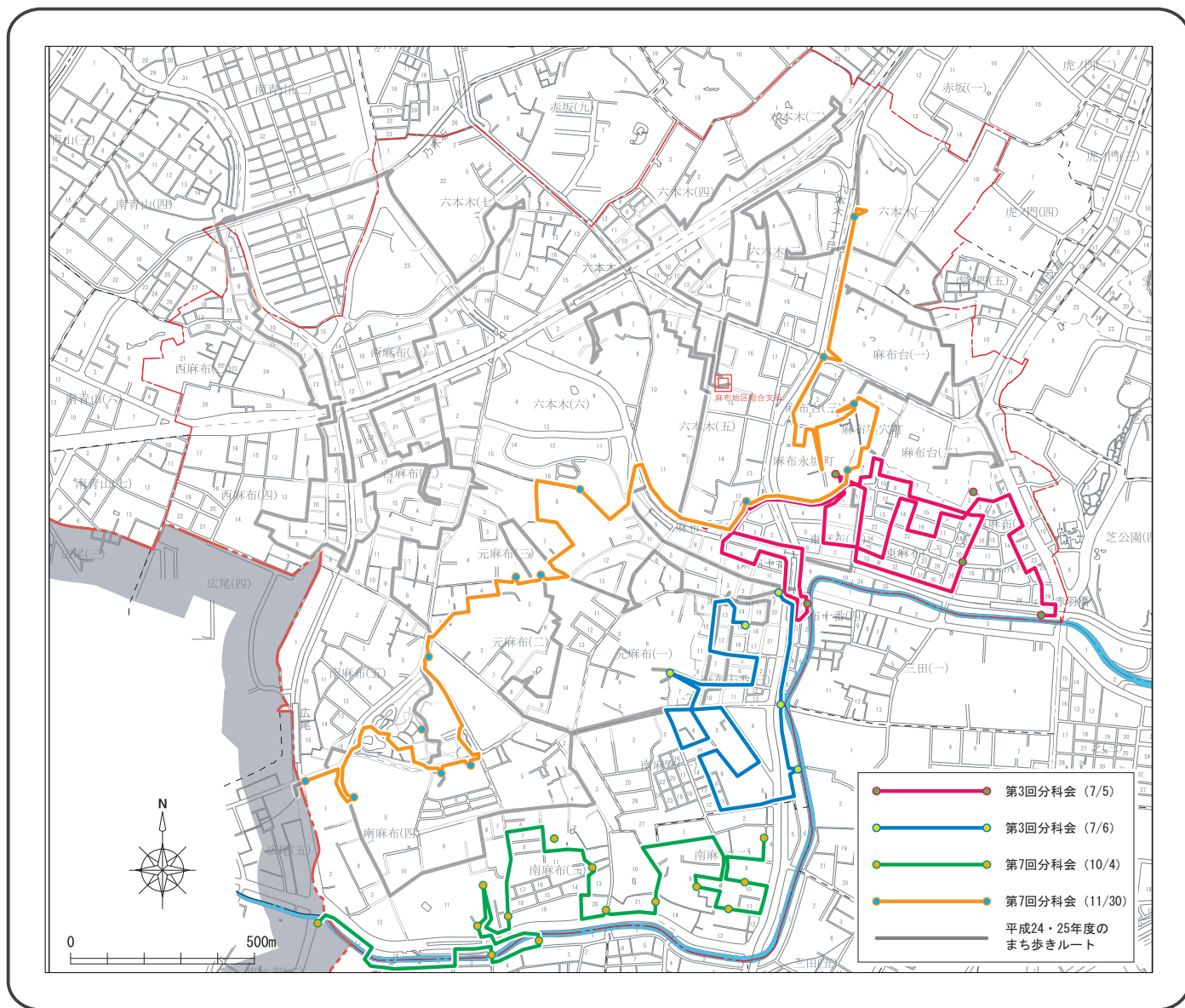
麻布子ども中高生プラザ等複合施設



麻布子ども中高生プラザ等複合施設

まち歩き（撮影）ルート図

今年度の分科会活動では、「麻布未来写真館」事業で麻布のまちの変化を保存する取組として行っている「まち歩き（撮影）」を下図の撮影ルートにより計4回実施しました。



麻布を語る会「麻布未来写真館」分科会 平成26年度活動報告

刊行物発行番号
26286-1435

平成27年（2015年）3月発行

発行 港区麻布地区総合支所 協働推進課

〒106-8515 東京都港区六本木5丁目16番45号

電話 03-5114-8812

《主な参考文献・資料等》：「増補 写された港区三（麻布地区編）～麻布・六本木ほか～」、「港区産業観光ネットワーク MINATO あらかると (<http://www.minato-ala.net/>)」など
 《古い写真等についての提供及び資料等》：河村 かずふさ氏、桜井 昭一氏、豊田 幸雄氏、田口 重久氏、齋藤 富士郎氏、佐藤 元紀氏、渡邊 稔子氏、早川 一夫氏、麻布西野園、東洋英和女学院、港区立麻布小学校、港区立弁小学校、港区立南山小学校、法政大学史委員会、駒澤大学禅文化歴史博物館、国立天文台天文情報センター、（順不同）
 《技術・会場協力等》：達川清氏（フォトグラファー）、フジフィルム スクエア（富士フィルム株式会社）、学校法人東洋英和女学院、麻布子ども中高生プラザ等複合施設（順不同）

《表紙の写真》【上の写真】昭和44年（1969年）：都電が走っていた頃の二之橋付近 写真提供：河村 かずふさ氏
 【下の写真】平成25年（2013年）：二之橋付近

©禁無断転載複製

「麻布未来写真館」

港区麻布地区総合支所では、区民や企業等と協働し、麻布地区の昔の写真などを収集するとともに、定点写真を撮影し、麻布のまちの変化を保存する取組として「麻布未来写真館」事業を実施しています。

麻布を語る会「麻布未来写真館」分科会
平成26年度活動報告 港区麻布地区総合支所

これまで作成したパネルや活動報告は、Webでもご覧になれます。

港区公式ホームページ
<http://www.city.minato.tokyo.jp/>



麻布未来写真館

検索 🔍

「麻布未来写真館」はこちら

「麻布未来写真館」では、古い写真を探しています！

未来に向けて、残し、伝えていくべきとお感じになる「麻布地区の古写真」がありましたら、どのようなものでもかまいませんので、港区麻布地区総合支所までお寄せください。

詳細につきましては、協働推進課地区政策担当までお問合せください。

お問合せ

TEL : 03-5114-8812